

様式第 1 号

令和 7 年 6 月 2 5 日

宮城県知事 村 井 嘉 浩 殿

〔設置者の名称〕 学校法人勝山学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 伊澤 勝平

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	宮城調理製菓専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <u>専門学校</u>)
大学等の所在地	仙台市青葉区葉山町 1 - 1 0
学長又は校長の氏名	伊 澤 勝 平
設置者の名称	学校法人勝山学園
設置者の主たる事務所の所在地	仙台市青葉区葉山町 1 - 1 0
設置者の代表者の氏名	伊 澤 勝 平
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.miyacho.ac.jp/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務部 大橋誠	022-272-3131	ohashi-m@miyacho.ac.jp
第2号の1	〃	〃	〃
第2号の2	〃	〃	〃
第2号の3	〃	〃	〃
第2号の4	〃	〃	〃

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☒）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料

☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	宮城調理製菓専門学校
設置者名	学校法人勝山学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	アドバンス キュリネル科 日本料理・すしコース	夜間・通信	1,920 時間	160 時間	
	アドバンス キュリネル科 フランス料理・イタリア料理コース	夜間・通信	1,920 時間	160 時間	
	アドバンス キュリネル科 ホテル・レストラン・ブライダル・サービスコース	夜間・通信	1,920 時間	160 時間	
	パルミエ キュイジーヌ科	夜間・通信	960 時間	80 時間	
	パティシエ・ブーランジェ・ショコラティエ科	夜間・通信	1,830 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP上にて (https://www.miyacho.ac.jp/)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 (無し)
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮城調理製菓専門学校
設置者名	学校法人勝山学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

理事名簿及び理事会議事録（財務諸表等を含む）の閲覧を希望する者には当校にて閲覧対応をしている

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長：現	令和6年2月4日 から 令和8年2月3日	学校法人の理事長を長年務め、学校運営についての幅広い意見を期待するもの
非常勤	ギャラリー主催：現	令和6年2月4日 から 令和8年2月3日	ギャラリー主催をしながら、様々なプロデュース業務をした実績から斬新な提言を期待するもの
非常勤	設計事務所 代表取締役：現	令和6年2月4日 から 令和8年2月3日	異業種の視点からの貴重な意見や提言を期待するもの
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮城調理製菓専門学校
設置者名	学校法人勝山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
調理師・製菓衛生師(国家資格取得及び受験資格取得)として必要な幅広い知識と技術、教養を身に付けるため、国の定めた取得単位数に準じ教育内容・教育目標を設定しております。 その中で各科目担当毎に授業内容や進捗目標を設定し、学修成果を着実に身に付けさせています。 授業計画(シラバス)については、ホームページ上で公開しております。授業計画や教育編成に当たり、学則に定めた事項を遵守し、併せて学則も公表することとしております。	
授業計画書の公表方法	HP上にて (https://www.miyacho.ac.jp/)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
本学は2期制を採用しており、前期・後期のそれぞれ期末には、学科毎の科目及び実技科目の試験を実施(2年生課程であれば卒業までに4回、1年生課程では2回)し、その得点に応じ成績評価をしております。 また、期末試験までの間には課題やレポートを課し、取り組み姿勢や提出状況、日ごろの授業態度も加味し、最終評価に加味しております。 これらは、学則及び規則に基づくもので、前述のとおり、学則や規則も公表することとしております。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 前段のとおり、成績評価は学則及び規則に基づき、厳格に実施しているところであり、客観的指数を設定し公表しております。 具体的には、学科・実技それぞれの科目において、科目ごと100点を満点とした試験を実施し、総得点から一定数ごとの人数に分類し、その分布により下位1／4を算出しております。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	HP上にて (https://www.miyacho.ac.jp/)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 期末試験の結果はもちろん、常の授業態度、課題やレポートへの取り組みを加味し、厳格に評価した成績と出席状況を基礎とし、学校長を座長とした卒業認定会議を行い最終的な卒業認定を行っています。 このことについても学則及び規則に基づいております。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	HP上にて (https://www.miyacho.ac.jp/)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	宮城調理製菓専門学校
設置者名	学校法人勝山学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	理事会議事録（財務諸表を含む）の閲覧を希望する者には当校で閲覧対応をしている
収支計算書又は損益計算書	理事会議事録（財務諸表を含む）の閲覧を希望する者には当校で閲覧対応をしている
財産目録	理事会議事録（財務諸表を含む）の閲覧を希望する者には当校で閲覧対応をしている
事業報告書	理事会議事録（財務諸表を含む）の閲覧を希望する者には当校で閲覧対応をしている
監事による監査報告（書）	理事会議事録（財務諸表を含む）の閲覧を希望する者には当校で閲覧対応をしている

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
衛生		専門課程	アドバンス キュリネール科 日本料理・すしコース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1, 9 2 0 単位時間／単位	840 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1080 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1, 9 2 0 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2 4 0 人の内 8 0 人		5 7 人	0 人	1 9 人	3 0 人	4 9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 入学後、基本的な調理器具等の手入れ法や使用法を学び、調理の基本動作を身に付けると同時に調理師として必要な知識を通し学習し、国家資格取得者として相応しい素養を身に付ける。 2年目には専門分野について実習を通し身に付けながら、即戦力となれるような実務的な実践授業を行い、希望する就職に向け職業人としての意識を高める。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 年2回（卒業までに4回）実施される期末試験を基準とし、常の授業態度、課題やレポートへの取り組み状況・提出実績を加味し、厳格に評価する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 前述の評価基準と出欠状況を基に、卒業認定会議を経て卒業が認定される。	
学修支援等	
（概要） 出席状況が芳しくない学生には、当然出席を促すとともに、出席しやすい環境を整え、支援している。 万一、単位が不足した場合には補講を実施し、履修支援をしている。 試験の結果が規定の点数を満たさなかった学生には、追試験を実施し学習内容の定着が確実に図れるよう促している。 常の取り組みに当たり、学習進捗や意欲に課題を抱えている学生には個別に学習支援する等、円滑な履修ができるよう配慮している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	19人 (95%)	1人 (5%)
（主な就職、業界等） 飲食サービス業、宿泊業 （ホテル等の調理部門、レストラン、その他飲食店、病院等の給食調理）			
（就職指導内容） 入学直後に接遇研修を実施、その後に就職希望調査を実施し、6月以降は企業様に来校頂き、職場説明をいただく場面を数多く設ける。 そこからきめ細かな就職希望をヒアリングし、担任教員と就職指導担当教員を交え、就職企業の選定、面接指導を経て就職まで導く。			
（主な学習成果（資格・検定など）） 調理師（国家資格）、食品衛生責任者、フードコーディネーター3級 食育コーディネーター、フードテクニカルマネジメントコーディネーター ふぐ調理士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49人	1人	2%
（中途退学の主な理由） 学校生活不適応、疾病・学習障害等による修学継続困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席（遅刻や早退も含む）が数度確認されたら、担当教員がヒアリングし要因を探す。 要因に応じ、生徒指導担当者等が適切な支援を行いながら、必要に応じて保護者も交え面談を実施、修学継続について支援する。		

① 学科等の情報

つづき

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	アドバンス キュリネール科 フランス料理・ イタリア料理コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1, 920 単位時間／単位	840 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1080 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1, 920 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人の内 80人		71人	0人	19人	30人	49人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

入学後、基本的な調理器具等の手入れ法や使用法を学び、調理の基本動作を身に付けると同時に調理師として必要な知識を通し学習し、国家資格取得者として相応しい素養を身に付ける。

2年目には専門分野について実習を通し身に付けながら、即戦力となるような実務的な実践授業を行い、希望する就職に向け職業人としての意識を高める。

成績評価の基準・方法

（概要）

年2回（卒業までに4回）実施される期末試験を基準とし、常の授業態度、課題やレポートへの取り組み状況・提出実績を加味し、厳格に評価する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

前述の評価基準と出欠状況を基に、卒業認定会議を経て卒業が認定される。

学修支援等

（概要）

出席状況が芳しくない学生には、当然出席を促すとともに、出席しやすい環境を整え、支援している。

万一、単位が不足した場合には補講を実施し、履修支援をしている。試験の結果が規定の点数を満たさなかった学生には、追試験を実施し学習内容の定着が確実に図れるよう促している。

常の取り組みに当たり、学習進捗や意欲に課題を抱えている学生には個別に学習支援する等、円滑な履修ができるよう配慮している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	26人 (96.3%)	1人 (3.7%)
（主な就職、業界等） 飲食サービス業、宿泊業 （ホテル等の調理部門、レストラン、その他飲食店、病院等の給食調理）			
（就職指導内容） 入学直後に接遇研修を実施、その後に就職希望調査を実施し、6月以降は企業様に来校頂き、職場説明をいただく場面を数多く設ける。 そこからきめ細かな就職希望をヒアリングし、担任教員と就職指導担当教員を交え、就職企業の選定、面接指導を経て就職まで導く。			
（主な学習成果（資格・検定など）） 調理師（国家資格）、食品衛生責任者、フードコーディネーター3級 食育コーディネーター、フードテクニカルマネジメントコーディネーター ふぐ調理士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63人	2人	3.1%
（中途退学の主な理由） 学校生活不適応、疾病・学習障害等による修学継続困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席（遅刻や早退も含む）が数度確認されたら、担当教員がヒアリングし要因を探す。 要因に応じ、生徒指導担当者等が適切な支援を行いながら、必要に応じて保護者も交え面談を実施、修学継続について支援する。		

① 学科等の情報

つづき

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
衛生		専門課程	アドバンス キュリネール科 ホテル・レストラン・ ブライダル・サービスコース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1, 920 単位時間／単位	840 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1080 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1, 920 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人の内 80人		21人	0人	19人	34人	53人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 入学後、基本的な調理器具等の手入れ法や使用法を学び、調理の基本動作を身に付けると同時に調理師として必要な知識を通し学習し、国家資格取得者として相応しい素養を身に付ける。 2年目には専門分野について実習を通し身に付けながら、即戦力となれるような実務的な実践授業を行い、希望する就職に向け職業人としての意識を高める。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 年2回（卒業までに4回）実施される期末試験を基準とし、常の授業態度、課題やレポートへの取り組み状況・提出実績を加味し、厳格に評価する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 前述の評価基準と出欠状況を基に、卒業認定会議を経て卒業が認定される。	
学修支援等	
（概要） 出席状況が芳しくない学生には、当然出席を促すとともに、出席しやすい環境を整え、支援している。 万一、単位が不足した場合には補講を実施し、履修支援をしている。 試験の結果が規定の点数を満たさなかった学生には、追試験を実施し学習内容の定着が確実に図れるよう促している。 常の取り組みに当たり、学習進捗や意欲に課題を抱えている学生には個別に学習支援する等、円滑な履修ができるよう配意している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	15人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 飲食サービス業、宿泊業 （ホテル等の調理・サービス部門、レストラン、その他飲食店等）			
(就職指導内容) 入学直後に接遇研修を実施、その後に就職希望調査を実施し、6月以降は企業様に来校頂き、職場説明をいただく場面を数多く設ける。 そこからきめ細かな就職希望をヒアリングし、担任教員と就職指導担当教員を交え、就職企業の選定、面接指導を経て就職まで導く。			
(主な学習成果（資格・検定など）) 調理師（国家資格）、食品衛生責任者、フードコーディネーター3級 食育コーディネーター、フードテクニカルマネジメントコーディネーター ふぐ調理士 レストラン・サービス技能士3級、ブライダル・コーディネーター3級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適応、疾病・学習障害等による修学継続困難		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席（遅刻や早退も含む）が数度確認されたら、担当教員がヒアリングし要因を探す。 要因に応じ、生徒指導担当者等が適切な支援を行いながら、必要に応じて保護者も交え面談を実施、修学継続について支援する。		

① 学科等の情報

つづき

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
衛生		専門課程	プルミエ キュイジーヌ科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	9 6 0 単位時間／単位	570 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	390 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1, 9 2 0 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
8 0 人		1 2 人	0 人	1 9 人	3 0 人	4 9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

入学後、基本的な調理器具等の手入れ法や使用法を学び、調理の基本動作を身に付けると同時に調理師として必要な知識を通し学習し、国家資格取得者として相応しい素養を1年間の授業の中で身に付ける。

成績評価の基準・方法

（概要）

年2回実施される期末試験を基準とし、常の授業態度、課題やレポートへの取り組み状況・提出実績を加味し、厳格に評価する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

前述の評価基準と出欠状況を基に、卒業認定会議を経て卒業が認定される。

学修支援等

（概要）

出席状況が芳しくない学生には、当然出席を促すとともに、出席しやすい環境を整え、支援している。
万一、単位が不足した場合には補講を実施し、履修支援をしている。
試験の結果が規定の点数を満たさなかった学生には、追試験を実施し学習内容の定着が確実に図れるよう促している。
常の取り組みに当たり、学習進捗や意欲に課題を抱えている学生には個別に学習支援する等、円滑な履修ができるよう配慮している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	13人 (72.2%)	5人 (27.8%)
（主な就職、業界等） 飲食サービス業、宿泊業 （ホテル等の調理部門、レストラン、その他飲食店、病院等の給食調理）			
（就職指導内容） 入学直後に接遇研修を実施、その後に就職希望調査を実施し、6月以降は企業様に来校頂き、職場説明をいただく場面を数多く設ける。 そこからきめ細かな就職希望をヒアリングし、担任教員と就職指導担当教員を交え、就職企業の選定、面接指導を経て就職まで導く。			
（主な学習成果（資格・検定など）） 調理師（国家資格）、食品衛生責任者、食育コーディネーター、 フードテクニカルマネジメントコーディネーター、ふぐ調理士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	0人	0%
（中途退学の主な理由） 学校生活不適応、疾病・学習障害等による修学継続困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席（遅刻や早退も含む）が数度確認されたら、担当教員がヒアリングし要因を探す。 要因に応じ、生徒指導担当者等が適切な支援を行いながら、必要に応じて保護者も交え面談を実施、修学継続について支援する。		

① 学科等の情報

つづき

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
衛生		専門課程	パティシエ・ブーランジェ・ ショコラティエ科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,860 単位時間／単位	630 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1230 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1,860 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
160人		86人	0人	14人	14人		28人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 1年目は国家資格である製菓衛生師受験資格取得のため、統一のカリキュラムで学び、2年次にコース選択を行う。 前述のとおり、1年次は基本的な道具の使用法や手入れ法を学び、製菓製造の基本的な技術を身に付け、国家資格取得者としてふさわしい素養を身に付ける。 1年次の修了時点で製菓衛生師の受験資格を取得し、2年目には国家資格取得に向けた学習支援を行いながら、高度な技術を学び、職業人意識を高めながら、希望する就職先に向け意思高揚を図る。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 年2回（卒業までに4回）実施される期末試験を基準とし、常の授業態度、課題やレポートへの取り組み状況・提出実績を加味し、厳格に評価する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 前述の評価基準と出欠状況を基に、卒業認定会議を経て卒業が認定される。	
学修支援等	
（概要） 出席状況が芳しくない学生には、当然出席を促すとともに、出席しやすい環境を整え、支援している。 万一、単位が不足した場合には補講を実施し、履修支援をしている。 試験の結果が規定の点数を満たさなかった学生には、追試験を実施し学習内容の定着が確実に図れるよう促している。 常の取り組みに当たり、学習進捗や意欲に課題を抱えている学生には個別に学習支援する等、円滑な履修ができるよう配慮している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31人 (100%)	0人 (0%)	31人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 飲食サービス業、宿泊業 （ホテル等の製菓部門、製菓店、その他菓子、製パン店）			
（就職指導内容） 入学直後に接遇研修を実施、その後に就職希望調査を実施し、6月以降は企業様に来校頂き、職場説明をいただく場面を数多く設ける。 そこからきめ細かな就職希望をヒアリングし、担任教員と就職指導担当教員を交え、就職企業の選定、面接指導を経て就職まで導く。			
（主な学習成果（資格・検定など）） 製菓衛生師（国家資格）、食品衛生責任者、 ラッピングコーディネーター			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85人	6人	70.6%
（中途退学の主な理由） 学校生活不適応、疾病・学習障害等による修学継続困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席（遅刻や早退も含む）が数度確認されたら、担当教員がヒアリングし要因を探す。 要因に応じ、生徒指導担当者等が適切な支援を行いながら、必要に応じて保護者も交え面談を実施、修学継続について支援する。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
アドバンス キュリナール科	200,000 円	540,000 円	720,000 円	その他は実習日 580,000 円 及び施設拡充費 140,000 円
ブルミ キュイナール科	200,000 円	672,000 円	578,000 円	その他は実習日 330,000 円 及び施設拡充費 248,000 円
パティシエ・ ブーランジェ・ ショコラティエ科	200,000 円	540,000 円	760,000 円	その他は実習日 620,000 円 及び施設拡充費 140,000 円
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP上にて (https://www.miyacho.ac.jp/)		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者評価は、評価の過程で、学校と学校に関係する者が互いに理解を深め、学校及びそこで学ぶ学生のために、それぞれの立場から意見を出し合うことでより良い学校運営に寄与するものである。 その基本は自己評価であり、自己評価の客観性、透明性を高める意味で、その機能が働かされていくことから、多くの意見を吸い上げ、その評価を公表することが要となる。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
日本料理総料理長	令和6年4月1日 から 令和8年3月31日	企業等委員兼 卒業生
会社経営者	令和6年4月1日 から 令和8年3月31日	近隣住民
高等学校 校長	令和6年4月1日 から 令和8年3月31日	高等学校関係者
学校法人職員	令和6年4月1日 から 令和8年3月31日	有識者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP上にて (https://www.miyacho.ac.jp/)		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP上にて (https://www.miyacho.ac.jp/) 理事会議事録（財務諸表等を含む）の閲覧を希望する者には当校で 閲覧対応をしている
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H104391010143
学校名 (〇〇大学 等)	宮城調理製菓専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人勝山学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		38人（ 8 ）人	37人（ 6 ）人	38人（ 10 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	14人	19人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅱ区分	7人	8人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅲ区分	9人	4人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	8人	6人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	人	前半期	後半期
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。